

GBIF 白書とガイドライン公開ならびに生物多様性情報発刊

GBIF ネットワーク白書 2010 :

GBIF ネットワークによる生物多様性一次データの発見と開示

この白書には、2004 年からの GBIF ネットワークのデータ活動がまとめられています。また、GBIF に集約されたデータと、網羅すべきデータとのギャップについて、次のように分析されています。GBIF ネットワークでは現在、2 億 1 千万を超える生物多様性データへのアクセスが可能となっていますが、GBIF ネットワークを実用に足るものにするためには、データの質と量を大幅に高める必要があります。

☛ [レポート全文はこちら](#)

データ発見と開示に関する戦略的アクションプラン策定のための実践ガイドライン

GBIF ネットワーク白書 2010 によって、ニーズにあった生物多様性データの発見と開示の仕組み整備が必要であることが明らかにされました。そこで GBIF は、そうした仕組み整備の戦略に最適な実践的ガイドライン作成しました。GBIF に貢献しようとするグループが、このガイドラインにそってデータ活動の具体的計画を立てていくことが期待されます。

☛ [ガイド全文はこちら](#)

Biodiversity Informatics 誌特別号「Towards a Global Strategy and Action Plan for Discovery and Publishing of Natural History Collections Data」

この特別号は、「GSAP-NHC に関する提言」、「網羅すべきデータ総数の見積もり」、「ニーズ駆動型のデジタル化推進戦略」、「データ開示における地理的分類メタデータを用いたアプローチ」の 4 テーマに焦点をあてた 8 つの稿からなっています。

自然史収集データのデジタル化、開示、発見はこれまで常に GBIF の関心事でした。2008 年 6 月、GBIF 事務局は自然史収集データの集約に関するグローバル戦略とアクションプラン(GSAP-NHC)を検討する作業部会を発足させました。この作業部会から出された提言をより広く浸透させることを目的に、Biodiversity Informatics 誌の編集者達と協力し今回の特集号を編纂するに至りました。

(GBIF の第 17 回運営委員会に出席した代表者や各ノード管理者の方々にとっては、会の初日にこの特集号が出版されたことを思い出すかもしれません。)

☛ [特集号はこちらから](#)